

【青森市教育委員会】

1人1台端末の利活用に係る計画（案）

1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

1人1台端末及び高速大容量ネットワークを中心とする ICT 環境を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを進める中で、特に、互いの感性や考え方に直接触れ、刺激し合う協働的な学びを充実させる。

1人1台端末等の活用については、AI 型ドリル教材の学習履歴等、教育データを効果的に利用した補充・発展的な学習を推進し、自立した学習者を育成する。

2. GIGA 第1期の総括

本市では、子どもたちにとって ICT 機器は、鉛筆やノートと並ぶ必需品であり、市内小・中学校においても日常的にそれらに触れることができる環境を整えなければ、子どもたちは時代に取り残され、世界から後れを取ることになると考え、国による GIGA スクール構想の推進のため、令和2年度から1人1台端末及び通信ネットワーク環境の整備を行った。

1人1台端末については、令和2年度から国庫補助金（公立学校情報機器整備費補助金）や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、令和4年度までに整備を完了した。

通信環境については、令和2年度に市内小・中学校の教室への無線 LAN の整備を行い、高速大容量かつ安定した通信ネットワークとなるよう、各学校が接続する通信回線の帯域を最大 100Mbps から 1Gbps に高速化したほか、インターネットへの接続回線数を1回線から5回線とし、全体で 5Gbps の帯域とした。

また、本市では、1人1台端末を効果的に活用した取組や、先進的な取組を共有することで、教員の ICT の活用意欲と能力を高め、新時代における先端技術を活用した学びの基礎作りを目指し、令和2年度から、あおもり ICT 活用教材開発コンテストを開催している。

具体的には、算数科のデジタル教科書に附属されている豊富な資料やデータを活用し、端末内でノートを作成して保存することで、時間や場所を選ばずに、教員と児童・生徒がいつでも振り返りができるようになった実践等が表彰されており、このような実践を市内の教職員用ポータルサイトに ICT 活用事例集として掲載し、教職員の指導力向上に向けて、実践例の活用を促進している。

こうした取組の成果として、小・中学校における児童・生徒の端末利用率について、令和5年度の調査では、市内小学校の 88.1%、中学校の 89.5%が、授業における ICT 機器の使用に関して「ほぼ毎日使用している」と回答しており、全国平均をそれぞれ大きく上回っている。

GIGA 第 2 期においては、令和 4 年度までに本市が全ての小・中学校に導入した 1 人 1 台端末は、個別最適な学習と協働的な学習を充実させるための必須ツールであることから、引き続き ICT 環境の充実に努める。

一方で主な課題としては、1 人 1 台端末は学校における活用のほか、本市では持ち帰りも積極的に行っているため、一定数の故障が発生することから、予備機を十分に用意するなどの対応が必要となる。

3. 1 人 1 台端末の利活用方策

1 人 1 台端末については、公教育の必須ツールとしての役割を踏まえ、計画的な維持・更新に取り組む。

本市では令和 5 年度全国学力・学習状況調査において、1 人 1 台端末をほぼ毎日活用していると回答した学校の割合が 88.1%と全国平均(65.2%)を大きく上回っており、学校や家庭における 1 人 1 台端末の積極的な利用に引き続き努めるほか、学校図書館において 1 人 1 台端末を活用し、図書検索や貸出機能の充実を図るなど、新たな活用にも取り組んでいく。

教職員についても、「ICT 活用教材開発コンテスト」などを通じて、授業実践の活用事例について共有を図るとともに、研修などにより教職員の ICT に係る指導力向上に努め、個別最適・協働的な学びの充実が行われる授業づくりに取り組んでいく。

また、多様な教育課題を抱える児童・生徒に対しては、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによるカウンセリングや相談、特別支援教育支援員による支援に加え、1 人 1 台端末を活用した相談体制を整備しており、今後は教職員に対する端末の配付対象の拡大や、職員室や保健室など校内の Wi-Fi 環境を充実させることにより更なる相談体制の整備を行うとともに、不登校児童生徒への支援についても 1 人 1 台端末をこれまで以上に活用しながら学びの保障に取り組んでいく。